

## 会議結果のお知らせ

### 開催した会議の名称

別府市図書館・美術館整備構想策定等支援業務委託検討委員会 第5回会議

### 開催日時

平成31年1月25日（金）9：30～11：30

### 開催場所

別府市役所5階 教育委員会室

### 出席者

委員 塚田俊三、中野伸哉、中山昭則、平石栄二、阿南寿和、原田勲明、稲尾隆  
事務局 高橋修司社会教育課長ほか2名、受託事業者 OpenA3 名

### 次第及び議題

次第（PDF①）

（1）審議

① 報告書素案について

（参考資料：中教審答申概要 PDF②）

### 主な審議内容及び会議録の概要

次第に基づき、議題について事務局から説明し、委員から意見を徴した。

#### 【事務局説明】

- 規模等の算定に当たって公表されている参考値として、日本図書館協会図書館町村図書館活動推進委員会（現図書館普及委員会）による『21世紀の町村図書館振興を目指す政策提言：Lプラン21「図書館による町村ルネサンス」』（平成12年10月26日）（以下、「Lプラン21」という。）があり、人口に応じた数値基準を示している。
- 建設予定地である別府公園文化ゾーンの法的規制から算定される建設可能面積は8,000㎡が上限となる。市民体育館部分は都市公園外になるため、この中には含まれない。
- 昨年末12月21日に中教審答申が出された。それには社会教育施設の役割

が大きく変わることが明確に示されている。図書館は、他部局と連携した個人のスキルアップや就業支援、住民ニーズに対応できる情報拠点としての役割が求められている。

### 【委員の主な発言要旨】

#### 1 規模について

- 民間施設が、合築か分棟になるかによって建築面積の計算が変わる。
- 新しく整備しようとする施設はいわゆる従来型の図書館・美術館ではないので、10年以上前の基準であるLプラン21を参考にするのは適切ではない。最近建てられた図書館の事例を掲載し、それを参考にしてはどうか。
- 県内の事例では、竹田市立図書館が延床面積1,578㎡、杵築市立図書館は2,091㎡、日出町立図書館は2,691㎡、県外であるが都城市立図書館は約8,000㎡、最近ではないが大分市立図書館本館は4,548㎡、大分県立図書館は11,142㎡、現状の別府市は約1,350㎡である。
- 別府公園文化ゾーンの建設上限面積を変更することは難しいが、一方で都市公園法の便益施設2%上限は市条例の改正する必要があるれば検討する。

#### 2 機能について

- 別府市がこれから施設を整備するに当たり、この施設の役割を社会にどう発信していくかが大切である。
- 賑わいを創出するためには、縦に建物を積む（階層に分かれる）のではなく、平面的に緩やかにつながるほうが効果的ではないか。
- 水平に展開するためには、現存する松林について議論しなければならないが、この松林を借景や木陰として利用したり、建物の形状をユニークにしたり、ポジティブな要素も多い。
- 人口ビジョンによると将来10万人を下回る想定であることをふまえ、人口減少をとどめるための施設にするのか、それとも人口が減少したあとは他の用途に使うのかといった観点も必要である。千葉の成田では将来的に福祉施設に転用できる小学校をつくった。オガール<sup>1</sup>の事例もあり、別府には温泉や福祉などのコンテンツもあるので、そういった要素を入れた記述があってもいい。
- オガールがすごいのは、最初から「稼げるインフラ」というワードを掲げているところである。海外や国内の事例をもう少し詳しく調べてほしい。
- まずは複数のパターンを出して、そのなかで来年度基本計画策定において

---

<sup>1</sup> 岩手県紫波町（人口3万3,800人）に建設された官民複合施設。補助金に頼らない公民連携で地域活性化を進め、全国から注目を集めている。

詳細なフィージビリティスタディ<sup>2</sup>をしていってはどうか。

- 民間機能との連携については、そのプラスαの機能を上手くグランドデザインに盛り込むべきである。
- 機能にクラウドファンディングなどの資金調達を担う部分があるとよい。

### 3 事業費・収益性について

- 図書館は無料、美術館は入館料だけという概念があるが、ワークショップや展示品の購入で収益を上げてよい。
- 建設コストは合築と分棟のいずれの場合もあまり変わらない。ランニングコストは空調などの整備設計や断熱性能によって大きく変わる。民間事業者がいかに入りやすいかの方が事業収支に大きく影響する。
- オープンプラットフォーム会議は民間収益施設にテナントとして入ってもらいたい企業や個人を戦略的に集める場としても有効である。
- 機能が時間によって切り替わることもありうる。朝はマルシェを開催した場所が、日中は子育て世代と高齢者世代が集い、夕方は学生が勉強し、夜にはビジネスマンが目的に応じた使い方をするという具合に、時間の変化とともにマルチに変化する空間であればよい。

### 4 総論

- 「space」と「time」で動きが変わるようなマルチファンクショナルなものであってよい。
- 時間帯によって使い方を換えれば、大きな空間がなくてもいい。あまり大きな「箱」(=施設)は必要ではない。
- プランニングは機能だけでなく、稼ぎ方のプランニングもある。
- 中教審の答申後、その内容を別府市が全国に先駆けて新しい施設に取り入れることになるインパクトが強い
- 「図書館・美術館」という考え方から脱却し、新しい概念のもと来年の基本計画に進めたい。

以上

---

<sup>2</sup> 計画された新規事業やサービスなどが実現可能かどうか、事前に調査し検証すること。